

令和3年度「関係人口創出・拡大のための対流促進事業」

成果報告会資料

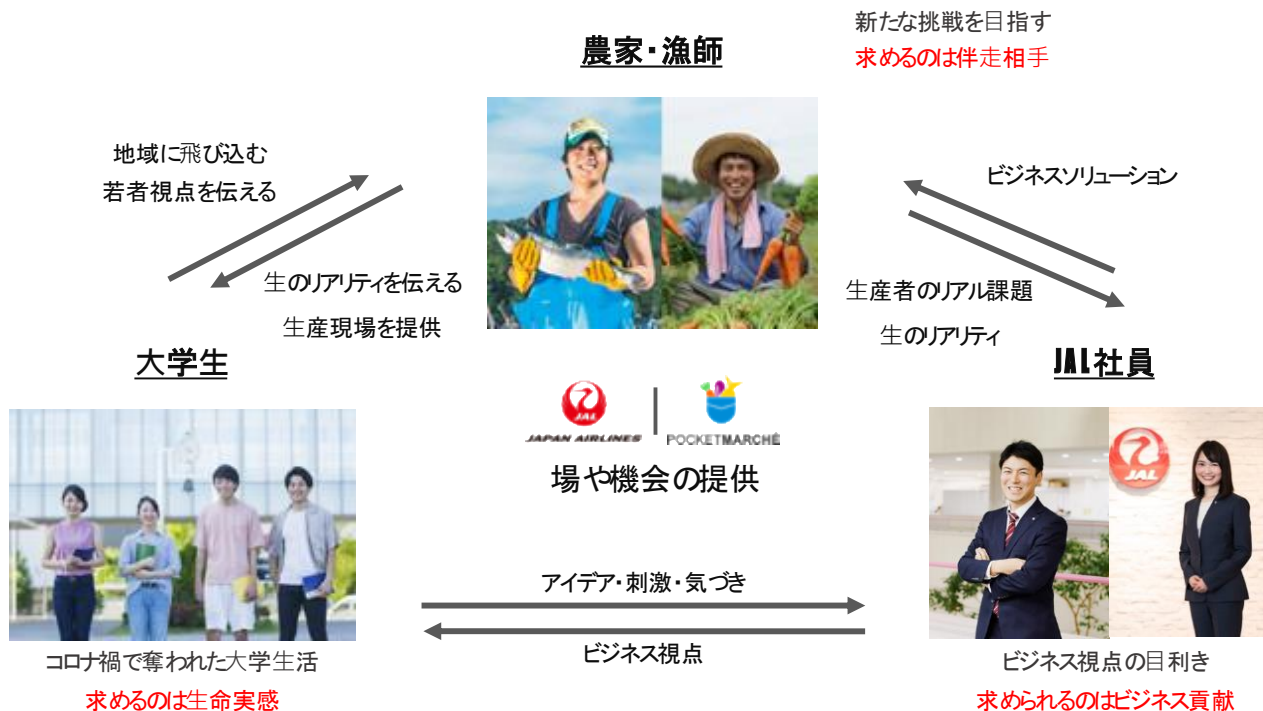
団体名：株式会社ポケットマルシェ



1-1.事業概要・スキーム図

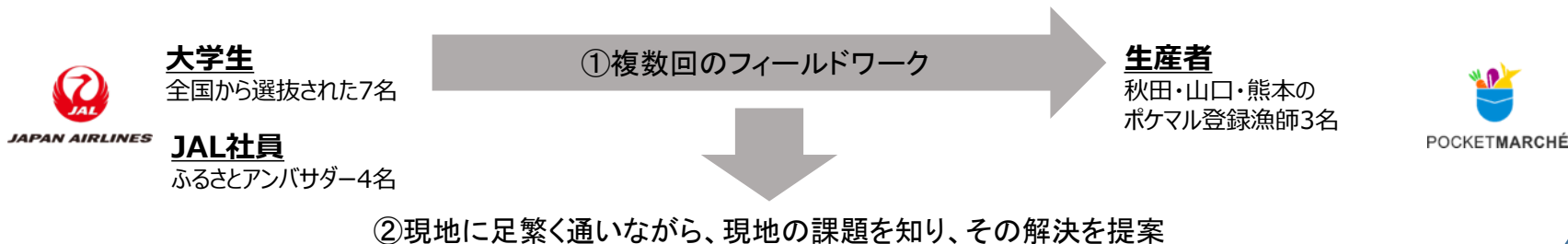
都市と地方をかき混ぜる、新しい人流を創造する。

<スキーム>



<事業概要>

「青空留学」 大学生、社会人が生産者の元で、生産現場のリアルを知り課題解決を考える滞在型プログラム



2.活動内容

<活動概要>

3回の現地フィールドワークとワークショップを通じ、生産現場のリアルを学ぶ。半年間のプロジェクトを経て地域に対する行動方針を発表する。学生が提言したアイデアをJALとポケマル、自治体または生産者との協働で実現フェーズまで発展させることを目指す。半年以上の密な交流を通じて、プログラム終了後も継続して生産者と大学生が繋がりを保つほどの関係性を構築することで関係人口を生み出す。

立上げ初年度にあたる令和3年度は、計4回の事業説明会に全国の大学生100名以上が参加、26名の正式応募に対して書類選考/面接を実施結果的に、計7名の青空留学生を選出

活動地域① 秋田県にかほ市

受け入れ漁師さん：佐藤栄治郎さん
(底引き網漁師)

学生2人 + JAL社員2名

<アウトプット案>

「漁師の魅力を知り、実感して、体験する」

- Youtubeチャンネルの開設
- 秋田の魚を食べるイベント (コロナで延期)
- 体験込みのツアーパッケージ造成



活動地域② 山口県山陽小野田市

受け入れ漁師さん：久保田宏治さん
(カニ漁師、町おこし団体代表)

学生2人 + JAL社員1名

<アウトプット案>

「山陽小野田の魅力を地元の方に伝えたい」

- 山陽小野田の天ぷら屋と久保田さんが代表する団体とのコラボ商品を制作
- 生産者を紹介する冊子の制作



活動地域③ 熊本県高森町

受け入れ漁師さん：打越友香さん
(ヤマメ・ニジマス養殖)

学生3人 + JAL社員1名

<アウトプット案>

「川魚の既成概念を超えるかわべ養魚場の魅力を伝えたい」

- 独自セット商品を制作 ⇨ ポケマルで販売



<スケジュール>

7月 参加学生決定

8月 事前研修、生産者との顔合わせ

9月 フィールドワーク延期に伴いオンラインにてワークショップ

10月 各地域でフィールドワーク (1回目実施)

11月～12月 各地域でフィールドワーク (2回目実施)

12月 中間報告会 フィールドワーク振り返り、アイデア立案

1月～2月 各地域でフィールドワーク (3回目実施)

2月 各チームでアウトプット実施

3月 最終報告会

1回目
フィールドワーク

生産者との顔合わせ、仕事を手伝い、現場目線を得る。
生産者や地域の人との関係性を構築

2回目
フィールドワーク

1回目ではできなかった作業に挑戦
生産者が抱える課題をヒアリングし、できることを模索。

3回目
フィールドワーク

2回のフィールドワークを踏まえたアウトプット案を提案。
アウトプットに向けた準備

アウトプット

フィールドワークを踏まえて、生産者の抱える課題解決に挑戦。
ただの地域滞在ではなく、当事者として生産現場と向き合う。

3.事業成果・KPI達成

【KPI達成状況】

	項目	達成状況	詳細
1	商品・サービスの開発・販売	準備中	<ul style="list-style-type: none"> • 熊本県高森町：若者世代向けのセット商品を開発し、ポケットマルシェにて出品予定 • 山口県山陽小野田市：地元食品加工会社とのコラボ商品(天ぷら)を共同開発、地元商店でテスト販売中 
2	新しい流通経路の確保	未達	<ul style="list-style-type: none"> • 秋田県にかほ市：水揚げされた魚を東京まで空輸しその場で食べるイベントを発案するも、沖合漁業ゆへの安定供給の難しさにぶつかり、苦戦中
3	漁師⇔大学生の新たな交流形態の創出	達成	<ul style="list-style-type: none"> • 秋田県にかほ市：学生が漁師のYoutubeチャンネルを運営することで、動画制作を通じて漁師についての理解を深める交流形態を創出 • 熊本県高森町：宣伝用の動画制作を通じて、青空留学参加学生以外との交流を新たに創出 

今年度は、新型コロナウイルスの蔓延に伴う現地フィールドワーク/イベントの順延等スケジュール変更により、当初想定と比べてKPI達成のスケジュールが遅延

【その他の事業成果】

	項目	詳細
1	青空留学を起点とした都市住民の誘致	<ul style="list-style-type: none"> • 秋田県にかほ市では漁師体験を軸としたパッケージツアーを立案中
2	青空留学をきっかけとした、関係人口/移住定住/交流人口の創出	<ul style="list-style-type: none"> • 参加学生7名のうち3名が、青空留学のプログラム外で地域を訪問、滞在 • そのうち、秋田県の1名（東京大学在学中）は2回目フィールドワーク以降、1ヶ月間延泊して漁師に弟子入りした （将来の進路が不明確な中で参加したが、<u>現在は水産に関わる仕事に就くべく、青空留学のアウトプットを皮切りに活動の幅を広げている。</u>） • 青空留学の参加学生は半年以上、生産者と密接な関係を構築しており、周囲の友人や家族が留学先に興味を持つような例も創出できた。 EX：学生のゼミ合宿先を青空留学の滞在先にできないか検討

4.自立化・自走化の検討

実施体制

事務局

- 運営コストの低減
- 定型業務のマニュアル化、専任人材の配置

現地

- 受入生産者の負担を軽減する必要あり
- 現地側から学生と社会人をサポートする立場が必要
→現地コーディネーター人材の配置

費用

今年度はPoCとして**持ち出し**で実施
 今後は持続可能な取り組みとするため、
収益性を追求する必要がある

自治体との連携

- 来年度は**複数の自治体から関係人口創出事業として委託費**を頂きながら実施予定

プログラム有償化

- 参加費
- 新たなターゲットとして社会人向けも検討

成果の評価測定

関係人口創出の効果測定

- 量：実施したイベントの参加者 + 最終報告会の参加者 + 新商品の購入者数
- 質：参加した学生・JAL職員の変化
(今年度プログラム終了後、アンケート聴取予定)

より多くの関係人口創出

- 参加大学生・社会人に限らず、その周囲・周辺にどう波及させられるか、仕組みを作る

5.他地域への横展開の可能性の検討

項目	検討内容
事業スキーム・プログラム	<ul style="list-style-type: none"> • 横展開できると考える（理由：生産者・学生それぞれに、ニーズがあるから） <ul style="list-style-type: none"> - 生産者：課題は人材不足であり、単純労働力はもちろんながら、新しい取り組みを始めるための伴走相手が地域にいない - 学生：コロナ禍で大学に物理的に通学する必要がなくなったことで、地域での暮らしや体験に興味を持つ人が増えている（今年度初実施にもかかわらず、募集時点で150名以上が説明会に参加したことから）
連携先・地域	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度の受け入れ生産者の所属する自治体 • 日本航空および弊社のある自治体（来年度は新たに複数の追加自治体で実施予定）
課題と対策	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍での対応。都市部から各自治体への移動が制限されることがあり、スケジュールや行動計画を逐一見直す必要がある • 地域ごと、受け入れ生産者ごとにプロジェクトの目的および活動内容、学生と社会人の目指す姿を整理する必要がある • 対策としては、現地側のサポートを整備し、事務局と現地とが一体的に活動できるような体制を構築する